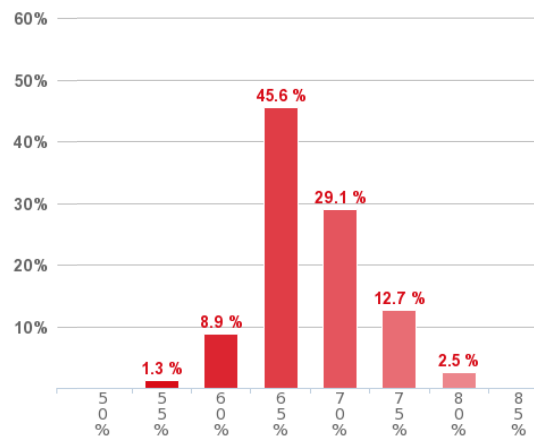


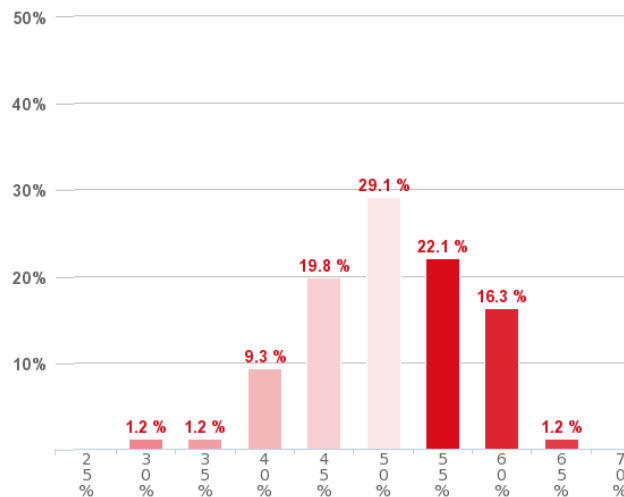
オーディエンスリスポンス循環器部門の CMR による答えと、皆様の判定値のヒストグラムを提示いたします。参考にしてください。

問題 1：正常成人



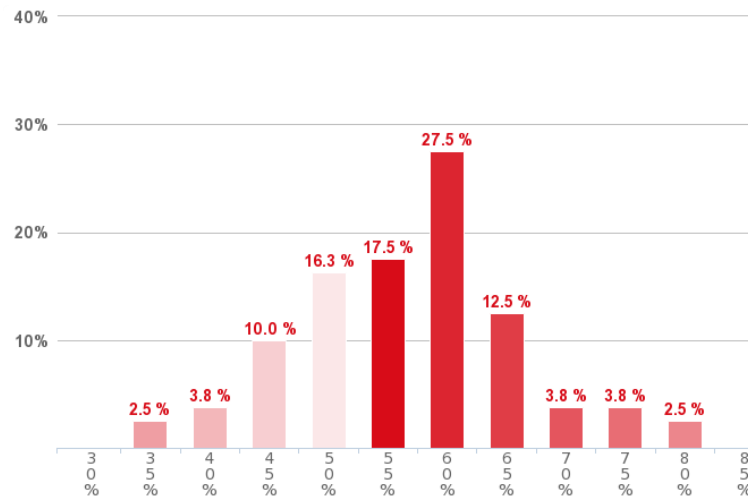
コメント：ほとんどの方が 60%、65%、70%、75%と答えられています。ただし正常の判定はしたものの、同一症例でも EF の違いが 15%あることに注意してください。

問題 2：左室機能低下 CMR EF 42%



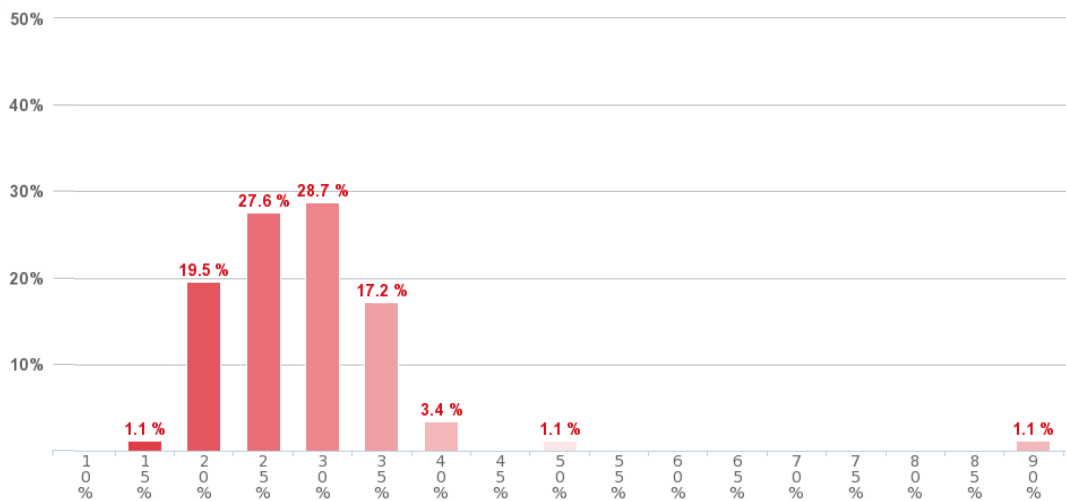
コメント：正解率は約 30%。多くの方が EF を高めに評価しています。約 40%の人が明らかに正常 EF(≥55%)と考えた点は注目すべきです。

問題 3 : 細菌性心内膜炎 CMR EF 42%



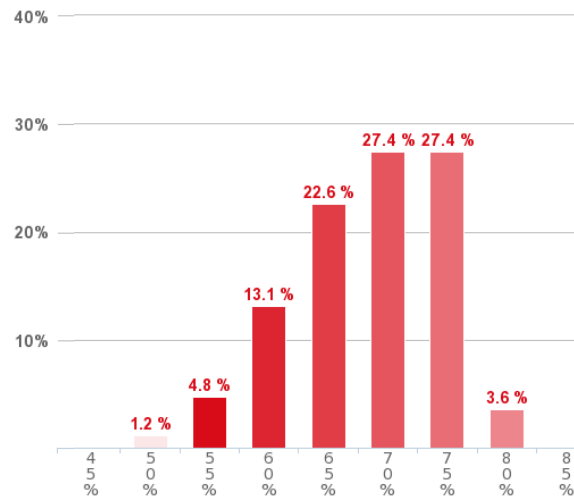
コメント：正解率は約 15%。答えがばらけており、多くの方が EF を高めに評価しています。頻脈の影響と思われます。

問題 4 : 左脚ブロック、左室機能低下。CMR EF 30%



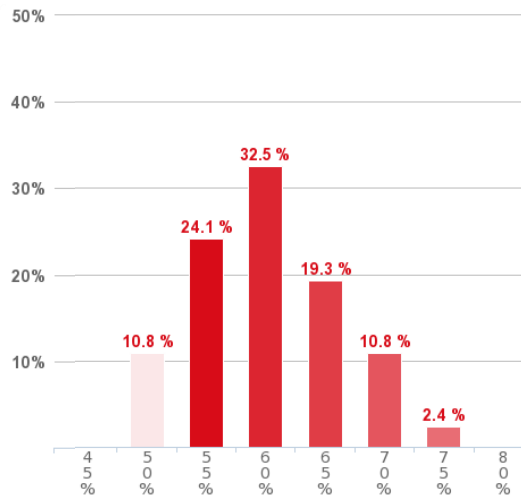
コメント：正解率は約 75%。左室収縮能の低下がひどいほどばらつきは少なくなり、正答率が上がる典型です。

問題 5 : 肺塞栓症。CMR EF 62%



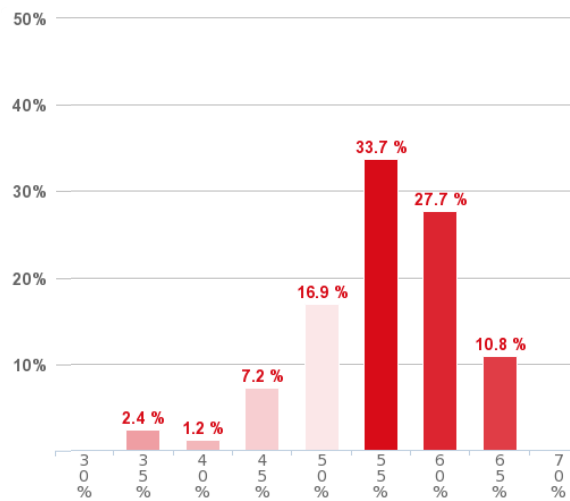
コメント：正解率は約 35%。この症例も左室収縮能が良ければバラツキが多くなることを示しています。

問題 6 : 大動脈弁狭窄症。CMR EF 54%



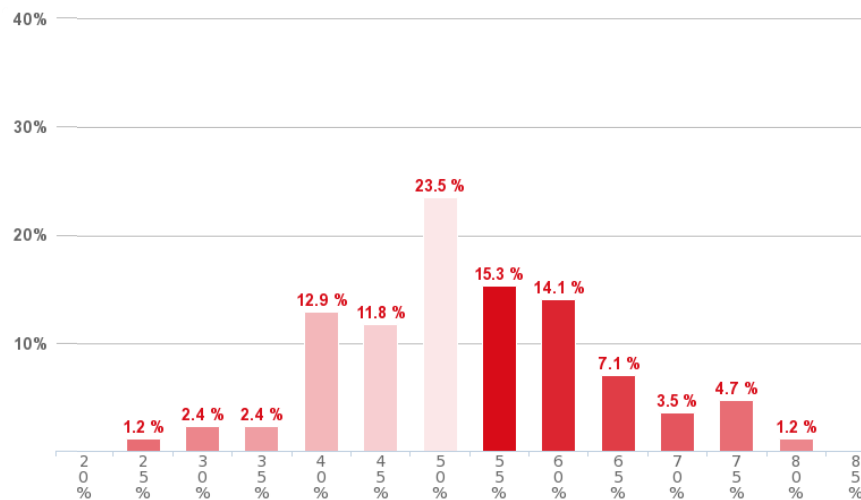
コメント：正解率は約 35%。やや大きめに LVEF を測定する人が多いことがわかります。

問題 7 : 大動脈弁閉鎖不全症。CMR EF 55%



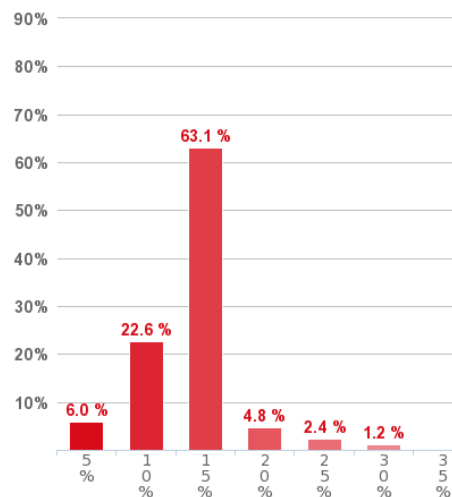
コメント：正解率は約 80%。問題 6 とほぼ同じ EF にも関わらず、正答率が異なることが興味あるところです。おそらく左室内腔が大きい方が内膜境界の判定がしやすく、正解が増えるのだと思います。

問題 8 : 心臓アミロイドーシス。CMR EF 38%



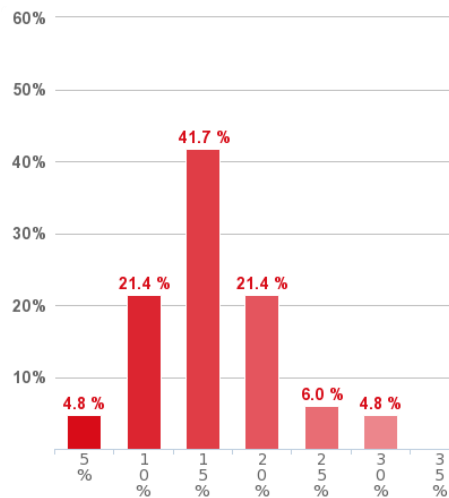
コメント：見事に答えがばらついてます。頻脈であること、左室肥大がある事が主な原因だと思います。左室肥大症例の LVEF 判定がいかに難しいかを、ご理解いただきたいと思います。

問題 9 : 心臓サルコイドーシス。CMR EF 10%



コメント：今回の中で最も低心機能の症例です。90%以上の方が正解しています。左心機能が悪い症例ほどバラツキが少なくなることを、この問題も明瞭に示しています。

問題 10 : 心臓サルコイドーシス。CMR EF 18%



コメント：正答率約 65%。問題 4、9 と同じ傾向です。

終わりに

今回の計測を通して、左心機能が悪いものは皆さん悪いと評価するものの、心機能が正常になるにつれ、LVEF 評価の程度にバラツキが出現し、特に左室肥大症例、頻拍症例でその傾向が顕著になることがおわかりいただけたと思います。

ご協力、誠にありがとうございました。また同様の企画ができると良いと思います。(文責；竹内)